

令和3年度第1回利府町民会議議事録

日時: 令和3年8月19日(木)午後7時～

場所: 文化交流センター「リフノス」多目的ホール

1 開会(参加者:65人)

- (1) 開会宣言
- (2) 町長挨拶

2 町長講演「利府町の市制移行に向けてのまちづくりについて」

3 意見交換

4 閉会

- (1) 町長まとめ
- (2) 閉会宣言

1 開会(午後7時) _0:25

《司会》

皆様、こんばんは。本日は令和3年度第1回利府町民会議にご参加いただきありがとうございます。本日司会を務めさせていただきます、利府町企画部秘書政策課長の千田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。初めに皆様にご案内申し上げます。本日、マスコミ及び広報担当が取材のため会場内に入っておりますので、ご承知願います。それでは、まず初めに、利府町長 熊谷大より一言ご挨拶を申し上げます。

《町長》_01:32

皆様、おばんでございます。本日は大変お暑い中、また、大変お忙しい中、「利府町民会議」にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。ただいまご紹介にあずかりました皆様お忘れかもしれませんが、利府町長の熊谷大と申します。どうぞ本日はよろしくお願いいたします。皆様固い表情をされているのでは。できれば柔和なニッコリとして今日の会を聞いていただければと思います。今日は事前に皆さんからご質問もいただいております。中には機械じゃないかと思うくらいの精緻に質問を突き上げてきてくださった方もいらっしゃるようで。質問もさることながら「町民会議」の位置づけはですね、皆さんの思いとか、夢とか、期待とか、そういったことを皆さんと共有して語っていただいて意見を聞かせていただいく位置づけですので、今回リラ

ックスしながら意見交換・対話をさせていただきたいと思っております。今日は楽しみにしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

《司会》_02:54

それでは、さっそく「利府町の市政移行に向けてのまちづくり」について町長からの講演を行います。町長、よろしくお願いいたします。

2 町長講演

《町長》_03:06

それでは、改めまして皆様よろしくお願いいたします。利府町長の熊谷大でございます。今日は甲子園も雨で中止になってそのあと再開されたということで、その試合をやってるさなかで皆さん、後ろ髪をひかれる思いで町民会議に参加していただいたのではないかと感じております。今日はですね、「市政移行を目指して」ということで、テーマそれぞれあるいっぱい中でこれを選ばせていただきました。というのは、今回「新総合計画」で将来野心的な目標として人口減少社会の中で、「市を目指していこう」という野心的なアンビシャスな目標を立てさせていただきました。これは皆さんもおそらく熱い思いをお持ちの方ですし、こういうふうにしたらいいいんじゃないかと強い気持ちをお持ちの方がたくさん今日いらっしゃってると思いますので、意見交換・対話という事で後半にさせていただきたいと思っております。まずは今日、私がなぜ「市制移行」という事を打ち出したのかという“思考プロセス”を皆さんと共有していけたらいいと思います。そして“市”というのは利府町にとってどういうことなのかということ、皆さんと気持ちを合わせることができたらと思っております。いくつか主な“思考プロセス”、“流れ”があるのですが、今日は2つぐらい紹介できたらと思っております。

まず、本日の流れ、こんな感じで行きたいと思えます。

話は3年前に遡ります。“就任当初の衝撃”というふうに書かせていただきました。これは何かというと、私は前、参議院議員で国会で活動させていただいておりました。私も文教科学とか震災復興は一生懸命やりましたので、文部科学省、財務省とかすごく繋がりがありました。人脈があると言ってもいいと思います。私は町長選で立たせていただいて就任しました。その当時の職員にも声をかけています。「みんな、それぞれも職場で課題があると思います。解決しなければならぬ目詰まりを起こしているところがあると思います。それを要望として国へ持っていきましょう。私も就任の挨拶と一緒に陳情しますので持ってきてください」と言ったんです。そうしたら後日、当時課長さんたちが町長室にきて「町長さん、宮城県を飛び越えて国に行くのは止めてください。」と言うんですね。これを懇願されたんです。「えっ、どういうことですか？」私すごくショックだったんです。「あれっ？ 県を飛び越えて国に行くのは止めてください」と。国との繋がりががあると自負してきたのに。最初に言われたんです。「なんでですか？」と聞いていけば、全然悪口じゃないですよ。事実を皆さんにお伝えしたいと思えます。「なんでなの？」って聞いたら、国からくる交付金が宮城県を經由して市町村に分配されます。そこがクラックボッ

クスだったんですね。いわゆる県が差配しているので、県を飛び越えて国に行ってしまうと県の心象が悪くなる。「だから、お願いですから、県を飛び越えて国に陳情に行くのは止めてください」と言われたんです。驚いたんです。それが課長の懇願です。

もう一つ、B、エアコンの話です。県にそれだけ気を遣わなきゃいけないということはどういうことなのか、と色々あったんです。代表的なものを皆さんに紹介したいと思います。私が「公立の小中学校にエアコンを導入するぞ。この猛暑に子どもたちは耐えられない。」となったときに「行くぞ」、「宮城県内で、また日本全国でも一番にエアコンを入れよう」と勇んで、「文科省に陳情に行くぞ」と言ったんです。教育長さんと一緒に行こうと言いました。そしたら、忘れないように記録を取っているんですが、平成30年9月20日16時30分宮城県施設課〇〇課長より電話。「先日、〇〇技術主査より文科省に陳情に行く話を伺った。県では文科省に9月7日エアコン設置に向けての要望を実施している。県全体で要望しているところなので、単独での陳情についてはどうかと考える。」と。私は次の台詞を待ったんです。「町長さん、行きたい思いは分かります。県がまとめて財務省に陳情に行きますからそれを待っててください」と、次の台詞が出てくるかと思っていたんです。全くないんです。ただ行くな。ということなんです。「これって何なんだ？」これを町長じゃなく、担当者に言ってくるんです。担当者がそう言われたら困るじゃないですか。それが一事が万事。そういう話がいっぱいあるんです。これは別に悪口を言ってるんじゃないですよ。事実を言ってるんです。

Aの話ですけれども、挨拶だけ言って陳情しなかった。Bの話とか諸々色々な話があって、これは民主主義と違う地方分権の話なんだ。私は町民の皆様から投票で選ばれて、町の発展を任されたと思っています。でも、その投票で選ばれた人間が、民主主義で選ばれた人間が、投票で選ばれていないお役人さんに「だめだ」と圧力をかけられる。これが本当に民主主義が機能しているといえるのか。また2000年に「地方分権一括法」が通って、国と都道府県は対等の位置にある。うたわれている。では、都道府県と基礎自治体はどうなんだ。これは、古い因習とか行政習慣とか陋習のたぐいというのをずっと引きずっているのではないか。自分たちの自治というものが本当にできているのだろうか。自治体ですから。自治の範囲をしっかりと括弧して広げるというのが住民の福祉向上であって、住民サービスの向上なのではないか。私たちは目の前に“市”というものの目標を掲げられるということができるといぐらいの人口規模を持っている。そうしたら、皆様の思いを、又はサービスを拡大させられるのは私たちの役割じゃないかと。ということが市制移行のプロセスのひとつ。

もう一つがシビックプライド。最近出てきた言葉かもしれません。このシビックプライドというのがどういう定義ですか。おそらくまとめると、このスライドに書いたような定義でいいんじゃないかなと思います。ここで重要なのは、自らが関わっていこうとする気持ち、当事者意識に基づく自負心、自発性。このシビックプライドが育まれると、ボランティア活動とか自治会活動、住民同士のコミュニケーションが活発になり地域が活性化され、住民の住み続けたいという気持ちがより育まれる。このシビックプライドの醸成がというものがもう一つの柱であって、自分たちの町を自分たちの力で市に移行させたという、このまさしく行動が、俺たちのまち・私たちのまち

を市にしたんだという気持ちがシビックプライドにつながっていくのではないかと考えています。それは皆さんがご想像簡単にできると思うんですけど、利府町はこういうふうに言われますね。仙台町民なんじゃないか、仙台市の方ばかり向いているんじゃないかと。それはそうですよね、働きに出ているので。なのでそういったことも踏まえて、自分たちのまちは自分たちで運営してその結果、市に自分たちの力でしたんだという強烈なシビックプライドを育てていきたいというのがもう一つの大きな思考プロセスの一つであります。

このタイミングで新総合計画を策定すると。皆様のお手元にも今日配らせていただいております。この総合計画を策定するときに私がこだわったのが、笑顔あふれるまちにしましょう。住みやすいまちにしましょう。これはすごくいい表現であり、みんな誰も断らない、誰も否定しない。その笑顔にしようとか、住みやすいまちにしようというのを数値化してみましょと。その数値化、私たちが前に進むための数値化の一つの目標が5万人。そして、5万人だけ言ってしまうと数字が独り歩きしてしまうんじゃないかという怖さもあった。でも、野心的な目標だと、私は首長です。目標を立ててそこに向かっていかせるという役割がありますので、数値化しようということで職員を鼓舞しました。

皆さんちなみに、今、出ている写真ってどのまちか分かりますか。ヨーロッパのまちです。ここは私たちの町と同じぐらいの人口規模です。モナコです。もし須賀とか浜田がいろんな規制がなかったら、こういうふうにならなっていたかもしれないですね。これが3万6千人規模のヨーロッパのまちです。これ色々な仕組みがあります。皆さん、こういうまちを自動車レースがビューンと急カーブとか通っていくんでしょね。そんなことも色々視野に入れて考えたりしていました。では例えば、その数値化しようということで、人口規模5万人という目標を立てると、財政規模・企業立地数・歳入歳出はこのくらいだよということも明確に、目標が見えてきます。数値化することによって。それは皆さんのお手元に新総合計画、ホームページにも載せているもので、利府町の現在値と目標値というものを数値化して出しておりますので、ぜひご覧いただければと思います。

それで、新総合計画というものを打ち出しました。市制移行を打ち出しました。そして、まずやったことは、戦略会議。その目標に到達するためにどのような戦略を組み立てていけばいいのか。みんなで幹部職員とともに話し合いました。戦略的に目標を達成するような道りをつくっていきましょう。そのために戦略会議を設置しました。そしてその結果、機構改革というものをしました。宮城県内の町村で初めて部制を採用しました。部長が新しく4月から誕生しました。なぜ、部制にしたかという、部長を中心にチームになってより専門性の高い行政を執れるようになるためです。これはもちろん将来を見据えています。それで機構改革をいたしました。数値化することによって、各課・各分野で数値化することによって、行政の進捗状況の見える化また、皆さんとこの状況が、いま私たちがどの立ち位置にいるかという進捗が、共有化ができるようになっております。

これは最後の余談になりますが、日本で最も小さい市、何人かということを出したんですけども、2,971人なんですね。北海道にあります。その次は福岡県の山田市というところで

12,679 人。宮城県で言うと、私たちの 36,000 人という人口より小規模で市なのは、角田市さんとか白石市さんなんですね。これは皆さんのイメージが付きやすいように出したんですけども。最後になりますが、皆さんこの絵、出しているんですけども、皆さん絵が好きなお分りになれるかもしれませんが、ゴッホの絵なんですね。ゴッホがテーマとして選んだまちは、南フランスのアルルなんです。アルルが5万人強のまちです。ゴッホはですね、ベルナールへの手紙にこう書いているんです。「この地方は(アルルのことですね)、大気の透明さと、明るい色の光覚が日本みたいに美しい。水が美しいエメラルド豊かな青の色の広がりを生み出して、まるで日本版画に見る風景のようだ」とこう書いたんですね。5万人の都市を目指すときに、自然豊かな利府町を、その自然を保護し守り、継承して行って、ゴッホが見惚れたようなアルルの絵になるようなまちづくり、市づくり、目指す方向性ということで、これは思考の一つのプロセスですけども、こういう形で市制移行ということを出したんだ。今日皆さんと共有をさせていただいて、後半は熱い皆さんの気持ちとか、利府町はこうあってほしい、市になったらこうやってほしい、こういうふうになるんだと。まさに自らが市にするという思い、気持ちというのをぜひ意見交換をさせていただけたらなというふうに思っております。皆さん今日はどうぞよろしくお願いいたします。_21:00

3 意見交換

《司会》_21:01

ありがとうございます。それでは、ただいまから町長講演に対してのご提案、皆様の思いなどご意見があればご発言願います。なお、限られた時間ではありますが多くの皆様からのご意見をいただきたいと思っておりますので、ご発言の際には2分以内で簡潔にお願いいたします。挙手の上、お名前を言ったあとにご発言願います。

《No.12 さん》_21:52

数値化というのは最もな話です。数値化がなければ行政の事業もできません。会社の営業目標もできません。数値化は大賛成。私は“将来、市に向けていきたい”というのも大賛成。

ちょっと今疑問に思っているのは、人口の推移を見ますと2020年7月末現在が 36,032 人、そして今年の 2021 年 7 月末現在で 35,990 人。なんと42人の減ね。そして今年の1月から毎月見てみますと、1月末日は 36,074 人でしたけれども、2月は13人増えました。あとは3月から7月までずっと毎月、対前月比マイナスですね。ですから、1月から7月までは84人も減になっていますね。

こういう中で“38,800 人を目標”と掲げて、事業計画・戦略を進めていくわけですが、具体的にどのように人を呼び込んで、あるいは町づくりをして人を呼ぶ工面するのは若年層だけでなく、利府は非常に土地が優れている。全国でも「利府に住んでみたい」という、全国のシニア層を逆にどうやって集めるかというのも一つのテーマじゃないかと思ひまして、人口の推移で 38,800 人の人口は、これだと毎年 300 人近く増えていかなきゃいけない。ところが、毎年減っ

ているところに疑問を感じています。しかし、“市”に向けた数値化、“自分たちで住みよいまちづくりは俺たちが日本でただ一人市をつくった”という事は大賛成です。以上です。

《町長》_24:57

ありがとうございます。冒頭でも「野心的な目標を立てました」というお話をしました。日本全体が人口減少する中で、利府は“市制化幻像”という野心的な目標です。実際、(No.12 さん)がご指摘のように・・・こうなっているんですね。私たちも分析は戦略会議等々でさせていただいております。分析をするより以前から言われていたことは、「利府は住む場所がない」ということなんです。猫の額ほどの土地に住宅地が重なり合いますので、どうしても土地の値段が高騰して上物もする。新しくできる所では5千万円以上の家が出ているということで、「私たちは子育て支援を全国でも先駆けて充実させた町」という自負があります。でも、肝心かなめの子育て世代が高くて住めない町となっている。その結果、どうなっているかという、お隣の大和町さんとか富谷市さんとか、七ヶ浜町さんとか、人口が増えている所に私たちが表現するのは、逃げて行ってしまっているというのが今の現状と捉えています。

なので、提供できるニーズに合った住宅地をどのように増やしていくのかというところ。いま、利府町には法律的に住宅地にできないところがたくさんあります。農業地であったり、農業振興地であったり又は市街化調整区域。そういうところをどのように県の皆さんと話し合いながら、どうやって味方につけながら、住宅を増やしていくのかというところがキーになってくるころだと思っております、その働きかけはずっとしているんですけど。太子堂も市街化になりました。金沢地区という西部の方も住宅地になります。そういった意味では人口が増えるような地盤をどんどんつくっていったところでもあります。私としてはマンションも視野に入れてどんどん建てたいなと思っております。ただそれは、土地の所有者の皆さんがどういうふうにか考えるかといったことがあるので、積極的に対話をしながら進めていきたいと思っております。

《司会》_28:09

(No.12 様)よろしいでしょうか。それでは、続きましてご意見のある方よろしく申し上げます。

《No.16 さん》_28:33

さっそくではありますが、今回のテーマである「市政移行にむけたまちづくり」について考えますと、利府町の強みは、なんといっても豊かな地域資源に恵まれているということが挙げられると思います。さきほど町長の意見を伺い、安心したところでもあります。町の市政移行に当たってですね、その資源の維持・向上が必要と考えております。自然豊かな都市・景観の保全と環境の美化推進に関し、以前の「町政懇談会」か「議会報告会」だったかもしれないのですが、その件名は忘れてしまいましたけれども、その懇談会においてですね、質問いたしまして、その回答をいただいたので、ご紹介させていただきます。質問としては「町道ののり面等の草刈り等を現在町民が無償で行っていますが、草刈りを行っている主に農家の方たちのですね、高

齢化しています。町有財産である道路等の維持管理は町で行うものと考えますがどうですか？」
ということの質問に対してその回答は、「町道の境界より1メートル以内は町で行うことになっている。地域住民と一緒に協力して環境美化に努めたい」ということであったと記憶しております。この懇談会から数年経っておりますけども、まだ私の家の近辺の町内河川が通っているところでさえも、町主導で草刈りしているところは一度も見受けられておりません。団地内等での道路なんかは、歩道を含めて町で草刈りを行っているようですが、それ以外の町道は団地とは区別されているのでしょうか。また溜池の草刈りについても同様でございます。草刈はご承知のとおり、危険を伴う作業であります。民間人が町有地の草刈りを行って負傷した場合は、誰も保証しないと思われます。そのような負担を住民に負わせてはいけないのではないのでしょうか。そうかといって草が伸び放題では交通事故の防止や防犯上の観点から好ましくないのは当然であります。今後も民間人にさせるのであれば、その保証のルールも必要と考えます。民有地とは違い基本的に町有の財産は町が予算を確保して、そして、ルールに基づき管理していくことが寛容かと考えます。市政移行も町全体が景観の保全と環境美化が向上することで住みやすいまちになるものと思ひます。それが利府町の発展につながると思ひます。

このような町有財産である道路や溜池等の草刈り作業を定めている保全ルール及び、運営実績がどうなっているのか、さらに今後の方向性をどう考えていらっしゃるのかお尋ねしたいと思ひます。以上です。_31:53

《町長》_31:55

(No.16 さん)、ありがとうございます。(No.16 さん)はどうしたら良いと思われますか。そこが今回の町民会議の主なテーマです。私が「やります」と言うのは簡単です。ただ、(No.16 さん)がどういうふうにしたら、町管理とかきれいな町を保全できるのかということをお考えというのをお聞かせいただけたらと思ひます。

《No.16 さん》_32:23

さきほどの中にもちょっと入れておきましたけれども、やはり予算を確保してやるべきが一つである。自分の財産は自分で守る。町の財産は町で守る。今までのボランティアとか地域住民に任せてたということが正直なところだと思ひます。もし町でできないのであれば、できる人がいるのであれば、その人たちに保証を充てて見返りも含めてやってもら。基本はやはり町でやるべきでないかと思ひます。以上です。

《町長》_33:00

町でやるべきだというお話、ありがとうございます。そこで私も皆さんと対話の中で、意見交換の中で色々生み出したいアイデアもあります。例えば今の場合、どのようにしたら町が又は町民の皆さんが又はNPOか又は草刈りができる人を募集してみようとか。ではその予算はどうしたらいいのかとか。皆さんの中でどのように思われるのか、むしろ私の方が聞いてみたい

などと思います。それがさきほど掲げさせていただきました“シビックプライド”の醸成、育みだと思っんですね。そこは皆さんにむしろ私が話すよりも皆さんから教えていただきたいと思っるので、皆さん「こういう手があるんじゃないかな」と思われる方がいらっしやれば、むしろお聞かせいただきたいなと思っします。_34:18

《町長》

(No.16 さん)がおっしゃるように“町が予算を確保する”それも一つの手だと思っします。それが絶対じゃなくて一つの手だと思っします。なので、それをどういふうに優先順位をつけていくかというのも町の重要な仕事の一つでもあります。では長年なぜ放置されているのかというのもこれ課題であり、問題である。では、問題を解決するには、皆さん逆にどうしたらこれは動いていくんだらうと思っします？

《No.4 さん》_34:58

葉山もそのような場所がありますが、基本は“伸びる前に切る”。そのまま放って置くと、あとで処理するのも費用もかかるコストもかかるというところ。ですから、こまめに見ながら意識付けをしていくというのが一つだと思っします。あともう一つのやり方としては、そこに付加価値を付けるっていふうな。単に草が生える場所だけではなくて、何かモニュメントみたいなものだとか「草で隠れると見えなくなるのでこまめにきれいにしましょう」とか、「ただ、草っ野っ原にしない」といふことだと思っします。

《町長》

ありがとうございます。

《No.35 さん》_36:14

今の質問に対してなんですけども、客観的にいくと「若者が農業に携わっていない」、「高齢化したから危ない」といふのが大前提なんですよね。そこで、町の中で伝統的に“利府の農作物”というものが“宮城県利府の宝”なんです。名古屋の水源と砂押川の水源で 1,000 年続く風土が守られている。でも若者はそこに“夢と希望”が持てない。だからこそ農業がやりたくない。利府の宝なのにそこに興味がいかない。だからこそですね、“シビックプライドの醸成”といひますけど、町の中の“歴史・文化・風土”それを町民大人も含めて、子どもたちも理解するといふのがとても大事で、例えば、利府の米がほんとに全国的においしいという事実があるんです。でも農協に納めたときに全部ブレンドして宮城県の米になります。これは事実です。農協に行って確認しています。でも、昔から利府の森郷と県民の森からの流れる水源といふのは、ミネラルたっぷりです。本当に素晴らしい農産物が、実るといふことが小さいときから認識されていない。だから、夢とか希望とか志に繋がらないといふ事が利府の伝統を継承したいといふ夢と志を持つ若者が少ないのだと思っんです。ですから、町長さんが言うとおりの“シビックプ

ライド”というものが町に愛着を持って、“町に対して誇りを持って”。では「何に誇りが持てるんだ」ということなんです。市になるから子どもたち、若者が誇りを持てるとは私は思えません、正直言って。町の資源に光を当てて、町の資源を価値観を上げることによって、「あ、この町は本当に素晴らしいんだ」、僕ら子どもたちが「僕らもこの町を保全していきたい。継承していきたい」という気持ちになる。だから人流が流れない。いま、若者みんな利府で働きたいと思う人いないですよ。みんな外に行ってしまいます。町の子どもや若者が“宝”なんです。その子どもたちが「この町で活躍したい」という気持ちこそが“シビックプライド”。町を愛する“地域愛”、“郷土愛”を持って人たちが大人になったときに町で活躍する。町を良くしたいという人が一人でもいっぱい増えることがとても“町に対する財産”なんです。だから僕としては自然と繁栄して市になるのは良いんです。でも伝統的に町の千年守られた風土。それが自然であったり情景だったり。町の資源を価値観が出るように町と住民と一緒にコミュニティをとって、今までには論点されなかったものを、実行力のある熊谷大町長がいるのだから、町民との地域コミュニケーションを復活することによって、“みんなが望むまち”、“みんなが望む未来利府”になってもらいたいと思うんです。

ですから、さきほど町長さんおっしゃったとおり、“国民主権”、“在民主権”ですよ。政治というのはあくまでも住んでいる人たちの意見が町、国にも各地方町村の行政、生活にも反映されなければ“町民主権”じゃない。せっかくこういう機会をつくってもらったのですから、大事にしていけばとても良いまちづくりになるし、町民と行政が共に手を組んで発展、繁栄に進んでいくのではないかと考えています。

ちょっとさっきの質問と逸れたんですけど、そういう気持ちでいますので、町の根本となる歴史、文化、風土に光を当ててあげるとのこと。そうしたら農業をしたいという人も増えるし、農業に価値観を与えることによって生業としても潤う。これは町と農家さんが協力するとか、あとは商業的に発達すること、利府の誇りである“自然と風土”、それが一緒に保全されながら商業的にも団地的にも発達していくということが全国でも特化する魅力ある利府町になると思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

《町長》_41:50

ありがとうございます。(No.16 さん) 発議ありがとうございます。あえて答えを言いません。色々な皆様のご意見をそれぞれ抽出していただければと思っております。発言ありがとうございます。手を挙げていらっしゃる方がたくさんいらっしゃるのです。どうぞ。

《司会》_42:11

それでは、ご意見ある方よろしくをお願いします。

《No.19 さん》_42:38

さきほど、熊谷町長さんから講演を聞かせていただいて、利府町の 36,000 人くらいの人口

を 50,000 人にするとか、富谷に匹敵するような市にしたいという欲望を持っておられることとか、次世代に繋がるような意欲を持って46歳の若さで立ち上げていく姿に私、非常に感動しました。それと、「町づくり大学」に一度参加しました。2020年12月、tsumikiの会場で。それも熊谷町長さんが立ち上げたと聞いています。カフェとか物産展、施設とかそういうところを立ち上げた人たちが、神奈川県とか東京から来た人たちの体験の話を聞かせていただきました。それとは別に今日、質問させていただく事項は町づくりの町長さんが講演をされた内容と違うのですが、現実を見てますので皆さんに聞いていただきたいと思います。初めてで震えています。読ませていただきます。

(《町長》おかけになってお話してください。)_44:18

信号機の問題ですけれども。読ませていただきます(紙を見ながら)。七十七銀行利府支店の駐車場を出てから利府街道に出るまでの新幹線車両基地に沿って走行するとき、一時停止標識があるけれど、いつも冷や冷やして運転していて危険です。以前より利府交番に地図を書いて説明しておりましたが、それに対しての返事がきません。ぜひ、信号機設置をお願いいたします。大変危険なんです。現実を言えば。誰も気が付かないのはおかしいです。利府町の町を良くしていくとか人口を増やす、それも非常に大切なことなんでしょうけども、現実に信号機の設置すらまだ解決されていないんですよ。警察でもうやむやにされている状態です。危険性のある場所ですので、運転されている方はよくご存じだと思うんです。それを解決していただければいいかなと思っています。よろしくお願いします。

《No.40さん》_46:01

本日はこのような会議を開いていただき誠にありがとうございました。さきほどの話題が出た“シビックプライド”。私もそう思っていますし、“シビックプライド”を調整することによってサイレントマジョリティーが主体である町民によって町が盛り上がっていくと私は思っています。“シビックプライド”っていう言葉は、町長も言われていると思いますが、最近の言葉で、自分の記憶では確か19世紀ヨーロッパでの言葉じゃないかなと思います。間違っていたらすみません。ヨーロッパでは“シビックプライド”の前に教育で「自分たちの市が、自分たちがどうやってこのようになったのか」というのを学校教育で教えているんですね。ただ、日本では古事記、日本書紀という日本人がなぜこうなったかという書物があるのに、戦後GHQの中で撤廃されて教育されなくなったんですけど、まずそこから、「日本人とはどういうものか」というものを学校教育でやった上で、さきほど(No.35さん)が言われていたとおり、利府町民として“利府町民の歴史”というものを学校教育で教えていき、我々大人も学べる機会を作っていくべきではないかと私は思います。以上です。

《No.49さん》_48:08

今回のテーマである「市制施行」ということで、総合計画に至った。さすが熊谷町長さんだなと思います。ただ、総合計画の中身の人口目標を見ますと、10年後に 38,800 人ということで、

5万人で「市になる」ということだと50年かかってしまう。そして目標としては低すぎるのではないかと。せめて10年で5,000人くらいを目標に上げてって、市を目指すんだというのが私の考え。どのような具体的なことでやっていくのかなということがよく分からない。土地利用の関係が色々あちこちで噂で入ってくる。岩切の境の田んぼが開発されるんじゃないか、西の方ですね。土地利用を変えるというのはすごく時間がかかるし大変だと思う。それもちよっと進めながらですね、人口を増やしていくのに駅前の地区の再開発とか、太子堂の市街化区域になったところで一般の個人住宅だけではなく、町長も言いましたけどもマンションを、下の方が店舗で上の方がマンションとか。例えば100世帯のマンションを10棟造れば1,000世帯ですよ。3.5人で計算すれば、3,500人増えるわけですね。10年間で。そのほか一般の住宅を含めれば10年で5,000人くらいにはなる。それを30年かければ5万人にはなりますけど、そんな簡単ですね、人口を5万人で市になるのを考えれば、どんどん人口を増やす施策を取らなければいけない。ですから5万じゃなくて、このあいだ合併したときには3万人で市になっているんですね。4万人で市になる方法はないのか、そうすると4,000人くらいですから、10年くらいで市になれるんですね。国の基準なのでちよっと難しいかもしれませんが、ただそういうのも一つありかなと思います。

《No.51さん》_51:25

一つ、市になると何ができるんですか。あと一つは、私いま2歳と10か月の子どもがおりまして、子育て世代の代表という感じでお話しさせてもらえればと思って。利府町が宮城県では3番目に15歳未満人口が多いと記憶していますけれども、利府町は子どものためにこれだけやっているということ、宮城県の中でも突き抜けてほしいなという思いがあります。教育では、富谷、大河原で先生たちの研修会があるというようにうかがいます。利府町でもそのくらい教育ですごいんだ、教育が自慢できる、突き抜けてほしいという気持ちでいます。

あと、先日、機関車の保存会のワークショップに行ったとき、もったいないなとすごく思っています。色々危険性などについて理解はしていますが、新幹線の総合センターあるのにもったいないなと感じました。子どもが喜ぶんですよ、あの機関車見て。なので、活かす方法はないかなと。せっかくあるのにもったいないなと感じています。単純に子どもが喜ぶんです。トーマスは子どもの頃に一度は好きになるのかなと思います、それと関連付けてもおもしろくできるのかなと。楽しいことに使えたらいいのかな。町民にとって自慢できる町になるのかなと感じていました。そのように、なにか子どもに対してつくってほしいというのが私の思いです。

《No.26さん》_55:11

2040年には全国の市町村の約9,000自治体が消滅してしまう可能性があると言われております。人口減少がどんどん進んでいく中で、市制を目指すという高い目標を持っている持つ熊谷町長に敬服しております。あと14,000人をいかに増やすかと。まず、定住・移住促進、Uターン・Iターンあると思いますが、子育て支援の先進自治体である利府町の町で、安心して子

どもを産め、子どもを育てていける環境かなり整っていると思うんですけども、より強固にするためには、第二児以降2番目のお子さんが生まれた、3番目のお子さんが生まれたときに、税制優遇をしていく、税制を軽減してやるというようなやり方もあったら、子育て支援、お子さんを産むこと自体も躊躇もなくなってくるかなと思います。子ども一人育てるのに1,000万以上かかるんですよね。そういうところやはり税制で優遇してやる、利府町はそういうところがあるんだよと言うと、よそからの移住が増えるんじゃないかなと思います。

あと、大事なものは、高齢化社会になります。健康寿命を延伸していく施策を積極的に行っていくことだと思います。長生きしていただいたおかげで、利府町は人口が増えているんだよということもあると思います。利府町には幸いにして、県のサッカー場、総合グラウンドとかプールもあるし、総合体育館もあるし、色々なスポーツ施設が充実しています。そこを有効に活用するようにしていただきたいと思います。

あともう一つなんですけれども、利府町はアクセスが、車に関しては非常に良く4つのインターがありますけれども、JRの利府～仙台間は非常に悪いです。日中になると一時間に一本。だけれども、高齢化なった場合には車から離れてしまうことを考えると、JRとか路線バスのアクセスを強化していくことによって、コンパクトシティというまちが潤っていくのかなと考えています。目標を高く持って消滅してしまう都市にしないように頑張りたいと思います。よろしくをお願いします。

《No.3 さん》_58:26

今回の“市制移行 人口5万人”という目標は個人的にとっても好きです。非常に野心的で私自身もすごくワクワクしています。ぜひ一緒に目指していけたらと思っています。私が発言したいことは2点あります。

まず1点目は“シビックプライド”の件です。(No.35 さん)は「利府町の歴史とか風土を教育の現場で子どもたちに教えることが重要ではないか」とおっしゃられていて、私も共感できます。私の子ども時代を思い出します。小学校4年生のときに、「私たちの利府町」という冊子を配られて、利府町をどっぷり勉強できる時間がありました。ただ、その小学校4年生のときだけでそれ以外の中学校などでは、利府町のことをどっぷり勉強できる時間がなかったのです。なので、私の提案としては、小学校だけではなくて中学校、あるいは利府高校とか、年次が上がっても利府町のことを学べる時間を設けるということが、一つ良い施策ではなかのかなと思いました。

2点目は、一番最初に(No.12 さん)が発言されていた“人口増加策”についてです。こちらについては高齢者の“Uターン”だったり“Iターン”だったり、そういった“人口増加策”が有効なのではないかとおっしゃっていて、これは私も良いと思っています。やっぱり、今後の“市制移行”のその先の利府町のことを考えると、50年後とかそれくらい先のことも見据えた上で調整は必要なのではないかと思っています。50年後のことを考えると2071年。超高齢化社会なんです。平均寿命が120歳くらいで、70歳でも「若手」といわれるくらいの時代になると思います。今後、人口を増やしていくに当たって、70歳とかそれ以上の「若手」と呼ばれる高齢者を

いかに利府町に抱き込んでいくか。こういった視点が必要になるのかなと思っています。私の提案として一つ挙げられるのは、一人身になった高齢者のための“シェアハウス”とかが良いと思ってまして、これからマンションを町長さんが建てられたいということですが、そのテーマの一つとして「高齢者の方のシェアハウス」という視点があっても良いのかなと思いました。

《司会》

ありがとうございます。そのほか、いらっしゃいますか。

《No.1 さん》_1:01:17

疑問と提案をさせていただきたいなと思います。皆さんの意見類を聞きますと、大変高度な意見であります。私は簡単に分かりやすい意見をさせていただきたいと思います。今回、会議を開いていただいてありがとうございます。私は1番目に申し込みました。私、77歳になるのですが、何年も前から疑問に感じておりました。

まず、“利府線”あります。“利府線”の西側には大きな施設がいっぱいあります。利府駅から東を見てください。施設が何も無い。あるのは第三小学校だけです。これは“いいまちづくり”ということではないのではないかと思います。そしてまた長町・利府断層の中に開発が進んでいるんですよ。これが「いい町」と言いますでしょうか。これから私たちの友達が東京とか千葉から来ます。「利府は 35,000 人いるんだよ」と大威張りで言います。「えっ、そんなにいるの？利府駅前見たけど全然いないんじゃないの」とこう言われます。最もだと思います。この開発は止めていただきたい。もっと“市”に向かった開発をするのであれば、東西関係なく開発を進めていただきたいと思います。東側には藪や田んぼがいっぱいあります。農機法でいま人災が起きますよ。開発で。

そして、さきほどから「高齢者、高齢者」って言いますが、「高齢者で楽しむことあるか」ってことです。皆パークゴルフやグランドゴルフがあるけれども、パークゴルフは皆、ほかの市町村に行ってやっているのではないですか。高齢化と健康増進のために、こういう施設も含めて考えていただきたいと思います。以上です。

《司会》

そのほか、ございますでしょうか。

《No.24 さん》_1:04:45

オンライン町民会議から引き続き参加させていただいております。前回と内容が被るところもあるんですけど、課題と意見を述べさせていただきます。よろしくお願いたします。

まず、“市制を目指す”ということに関してはメリットもありデメリットもあり様々だと思います。どちらに偏っても良くないと思っているんですが、そこに良いところを見つけながら良い方に前向きに進んでいければそれは良いなと思っています。現在5万人を目標にするということですが

が、単純に農地がそのまま宅地が変わっていっただけのように見えるところがあります。マンションの話も出てきましたけれども、5万人になる頃に「利府町ってどんな形になっているだろう」と非常に不安になるところがあるんですね。(No.35 さん)の話にもありましたけれども、利府町は非常に長い歴史があり自然豊かな所があり、そして農地に関しても重要なポイントがあると思います。こういったものをどのようにゾーニングしていかれるのか、その辺の線引きをはっきり示していただきたいと思います。利府町にも非常に良いところがたくさんあると思います。歴史に関してのもの、自然に関するもの。様々あるとは思いますが、そういったもののPRがやはりいまひとつ足りないのかなと感じております。私自身も利府町を離れて十数年間、首都圏を中心にしてきましたけれども、ここ数年間だと思えます。地下鉄に乗ったりするときに利府町のポスターを拝見するようになりまして、「懐かしいな」と思えるのですが、それを見て「利府町に住みたい」というところに繋がるだろうかと思結しないところがあります。「利府町、きれいだな。きれいなポスターだな」で終わってるかなと客観的に思う印象です。5万人を目指すに当たって、「受入体制はどうか」というところを見ますと、インフラの整備というところですが、後々、取り返しのつかないことにならなければいいなと思います。といいますのが、イオンさんにきていただいたこともありまして、非常に道路が渋滞しています。グランディがきたよりも非常に格段に上がったと思います。こういったところですね、車線を増やすであったりとか、幹線道路を増やすとか。道路の整備、こういったところも人口が増えて、土地の買収が決まった後に掘り返すというのは、なかなか現実的ではないかなというところもあります。そういったところもしっかり整備整備していただきつつ、なおかつさきほどおっしゃっていたマンションとか、そういった集合住宅をある程度増やしていかないことには、人口の増加というのは現実的ではないのかなと。これに関してなんですけど、小学生の頃ですかね、しらかし台だったり、青山、青葉台とか団地の造成も進んでおりまして、全国2位とか人口増加率を誇っていた時期もありますけれども、実際にま蓋を開けてみていかがでしょうか。発展性がない状況に感じるのは私だけでしょうか。こういったところも踏まえてですね、人口を増やすのであれば、その先のことも考えてですね、人口の年齢層の問題とかも含めて、循環型になるような施設をつくる、町政をつくっていく、そういったところを課題として見据えてらっしゃるのであれば、その辺の話聞く機会があればありがたいなと思っております。

そこについて私が意見をさせていただけるとするるのであれば、例えば高層マンションとか誘致したいなと思っておりますし、中層階に関しては、デイサービスができるんですね。そういったバリアフリーの世帯にたくさん入っていただく。そうすると高齢化に関する問題もある程度カバーできるのかなと思っておりますし、上層階については、それこそ子育て世代の皆さんに入っていて、利府町を見渡せて、より魅力が持てるような、そういった集合住宅になってもおもしろいんじゃないかなと。利府町の中心部にできてくると、団地とイオンの間くらいが理想なのかなと思っておりますけれども、そういったところが増えてきますと、町民バスは走っていますけれどもあまり乗っているのを見かけないんですね。ただ、巡回ルートにも入ってきたりすると、活用地が増えてくるのかなとも思います。いま宮城交通さんでバスが走っていて、JR利府線と

かありますけれども、なかなか時間がぴったりしていないと感じるんです。バスがせっかく来ても電車に乗るまで30分待たなきゃいけないとか。その辺に関しても少しずつ課題があると思うんですけれども、なんとか努力していただきたいなと思います。

あと、農地なんですけれども、これ結局継承する人がいないということもあって、ではもっと宅地にしようとか、その第二の世代からすれば、お金にもなって良いのかもしれないです。ただですね、その先々利府らしさをどのように皆さんがイメージしているか様々だと思うんですけれども、どう守っていくかというのも同時に考えていかなければいけないのでしょうか。例えば、利府梨にしてもそうなのですが、利府町がバックアップする形で農業法人をつくる。例えば宮城県にも宮農とか農業を目指す若者が入れる学校がありますから、そういったところと提携したりとか、卒業生を迎え入れるとか、若い力を利府町に引っ張ってくる。その就業先をつくる。商業地もつくる。バランスが大事になってくるのではないかと思います。

あとは、利府のSL公園ですとか子どもの頃から遊んでいた記憶があるんですけれども、傷んでいくのは分かるんですよ。ただ、直すのもずっと繰り返してたくさん予算がかかるというところではあるのですが、例えば、屋根をかける、それから公園の整備をもう少しおしゃれにしていたら、利用者も増えていくのではないかと。なかなか貴重な車両もあるということでもありますし、そのSLが走っていたということから、利府町がどういう歴史を辿ってきたのか、勉強会を開けたりするのかなと思っています。ぜひそういったところも、参考にさせていただければと思います。

4 閉会

《司会》_1:12:33

時間となりましたので、ここで質問を締め切りとさせていただきます。

《町長》_1:12:41

皆様、熱い思いをありがとうございます。紹介がするの忘れたのですが、機構改革で4月から新部長が誕生したというお話をしましたが、後ろで幹部が副町長以下、聞いておりますので、皆さんの意見は必ず頭にインプットされているはずですので、ご安心いただきたいと思います。少子化について、また人口増について、別テーマにて話さなければいけないなと思いました。頭の体操でも何でもよいので、1.4万人これから増やしていくのは、皆さんの知識豊かで熱い思いを持たれているなど。今度は、頭の体操レベルで良いので聞かせていただけたらおもしろい会になるなと思いました。

(No.40 さん)、(No.35 さん)の話聞いて思うのは、少子化が大変課題です。世界で少子化に悩んでいる国は3つあるんですね。私が本で読んで調べたりして、ひとつ日本、次ドイツ、イタリア。これ戦争で負けた国なんですね。ここがキーポイントでになるかなと思います。なんでなんだろうと、それ以上先は言いません。かなり政治的な話になりますので言いません。皆さん興味があったら、日本、ドイツ、イタリア。戦争に負けた国が少子化で悩んでいる。その3つの

大きな国になったところが悩んでいるということ、ぜひ紐解いていただければ大変興味深くなるのではないかなと思っております。

(No.19 さん) 震えながらのご発言ありがとうございます。信号機、私たちもいっぱい欲しいんですね。県警にも、イオンさんがいらっしゃったときにもかなりお話をしました。まずは、県警さんでは、調査をさせてくれというお話で、色々はぐらかされているようなこともあります。ただ、皆さんここで一緒に考えていただきたいのは、信号をつけるというのは、1基 2,000 万円。信号って4つとか、1つの交差点で信号つけるというのは1億円かかるということです。色々ところから信号機をつけてくださいという要望あるのですが、値段で皆さん見てください。あ、ここ1億だとか。それは税金です。なので信号をつける又は信号をつけようという運動をする。でももう1つ前に、私たち自分自身ができることはどういうことなんだろうかと。さきほどの話に戻りますけれども、「シビックプライド」とか、自分たちがまちづくりに関わっていくということは、どういうことかを同時に合わせて考えてみてほしい。もちろん私たち聞かせていただいたことは預かりますので。そういったことも考える一助にさせていただきたいなと思います。

(No.49 さん) は大変おもしろい、興味深い人口増の計算をしていただいて本当にありがとうございます。(No.1 さん) がおっしゃった東部の扱いですね、おそらく感じていらっしゃると思うのですけれども、だんだん町の発展が中心から東部にいっているという認識をぜひ持っていたきたいなと思いますね。

(中道は5~6,000万だが、野中はたったの2千7~800万である)

おっしゃるとおりです。今回、ルートインの誘致も成功しました。リフノスもそうですけれども。西から中心そしてどんどん東部の方に発展がつながってきているなという意識をしていただけたら、(No.1 さん) の言及したことも考えて町もやっていることは伝えておいていただければなと思います。

若い世代の方からお話ありました。市になるとメリットはなんですか、皆さんが1度は聞きたいことだと思います。でも、あえて私からは言いません。それは私が市制移行のプロセスの中でお話しした中で、皆さんがどのように思われて、市になるメリットとか、デメリットってなんだろうというのをぜひ持ち帰っていただきたいと思ひから、あえて答えを出さないようにしております。それぞれの市の想像とか、メリットとか、デメリットがあると思います。私は、より悲しんでいる人たちに手が届く、これ表現が難しく数値化はできないのですが、より悲しんでいる、屈強に立たされている人たちに手が届くような制度というのは市でできるなと思っています。これは一つの表現ですけれども、そのメリット、デメリットは皆さんぜひ考えていただきたいなと思うのと、利府町は子どもたちへの教育はピカイチだと思っています。身内褒めするわけではありません。新聞河北さんでも紹介していただいていますけれども、宮城県が行っている、算数チャレンジ大会があるんですね。三人一組のチームになって計算を解いていく形式です。なんと利府町は宮城県ナンバーワン3年連続です。1番最初は利府小学校、その次に菅谷台小学校、その次は利府第三小学校。頑張っています。宮城県で一位です。これをもっと私はPRしたいと思っています。全国にもっとPRしたいと思っています。礼儀正しさとか、道徳心とかについても子ども

たちは高いと思います。

もう一つ、高齢者の皆さんの方のシェアハウスとかそのとおりで、できれば、利府駅前というのを話したことがあるのですけれども。駅舎につながるサ高住みたいなのとかマンションをつつてくれと言ったんです、JRさんに。JRから帰ってくるとすぐそのままマンションに行けるような。そういう制度もあるし、JR実際につくっているんですね。そして、高台や新興住宅地といわれていたところの方々が高齢化しているので、そういうところに移り住んで、年金とその家を若い人たちに貸した賃料で住んでいけるような仕組みを、うまくつくってもらえませんかねとJRさんにも話をして。コロナ前に。まちづくりに関してアイデアを出しながら、事業の皆さんとどうやって連携できるかということをお話しています。

さらに人口増加策ということで、新幹線の車両基地という話がありました。新幹線の車両基地、今回のオリンピックで博多南駅みたいに利府をできないかということをお話にもJRさんにも働きかけました。それはどういうことかということ、博多南駅というのは利府みたいに車両基地があります。そこから博多駅に行くまでには、普通の電車料金で払って新幹線に乗ることができる。例えば、利府では、新利府駅から仙台駅まで通常料金で新幹線に乗って行けるんですね。例えば、ここから新利府駅から新幹線に乗って仙台駅まで行けます、通常料金で。それを普通に言ってなかなか難しいので、オリンピックの機会に「利府町は渋滞の町だから、選手とか監督、大会関係者が遅れないように東京から直接に新幹線に乗って、渋滞のない中で新利府駅や車両基地で降りてグランディに行くように」ということで、それをポストオリンピックの目玉として、交通の足がいいですよというところで町の宣伝と使えるし、住民の増加に繋がる、そういう提案をどんどんします。ただ、コロナ禍でなかなか難しかった。新幹線の乗客が伸び悩んでいるということもあるので、ペンディングのようにされております。ただ、そういったことをどんどん提案をしていっております。なんでもPR不足という意見が(No.24 さん)からもありましたが、色々なことは試みて、とにかくまずは利府町を知ってもらおうことから始めよう。ふるさと納税もそうです。もう一つ、次のステージはどうやったら利府町を選んでもらうのかという段階になる。これから突入していくのだと思います。

そこで、具体的な人口 14,000 人というものの増加策、逃げるようで申し訳ないです。皆さんに、どういうふうな 14,000 人増やすにはこうしたらいいんじゃないか、ゾーニングというお話もありましたし、自然とどういうふうな都市というのは共存できるまちづくりをしていくのか、マンションが最適なのか、それとも一戸建てで庭を造って、その庭を小さな自然としていくか、とかいろいろあると思うんです。それを皆さんとお話をしながら、また、新しいまちづくりの第一歩にして繋げていきたいと思っております。時間がなくて、申し訳ないんですけれども、皆さんからいただいたお話と、これでは納得できないといった意見は、ぜひアンケートに書いていただいて、私全部読ませていただきますので、ぜひ書いてください。今回皆さん消化不良かもしれませんが、ぜひ提案していただきたいと思っております。

すいませんけどね、これだけ質疑応答したいというのに、なぜ時間がないということなのか。この場で町長に確認したいんです。

前回の総合計画書 2010 年から 2020 年で、このときの前 鈴木町長もいました。2008 年(平成 21 年)6 月 11 日十符の里プラザで 19 時から 20 時 40 分まで、町民との懇談会のときに、私はこういうふうに言いました。「若者の集まるまちづくりをしてみてもどうですか。具体的には、首都圏の大学・専門学校誘致をしてみたい」とお話ししたら、答弁したのは担当か町長か分かりませんが、「平成22年度中に150町部の線引きの見直しをし、団地や商業施設と合わせて誘致をしたい」と言っていたが、どうなっているのかなと思うんです。利府村はなぜ発展していったかという、水があるからでした。大正元年の3月に宮城県で一番早く土管の水道施設をつくっており、村レベルでは全国で7位ですから早い。だからこそ利府の村は発展しています。だから、そういう専門学校の誘致するのも一つの人口増。

もう一つは、将来に向けてまちづくりは単独の自治体では、JRだって金を出さないですよ。だから、これは5万人か10万人か分かりませんが、JRの利府駅から、青葉台、菅谷台あの辺の団地を回って、グランディを回って、富谷を回って、泉中央にJRが乗入れできるような環状線をつくるんですよ。それは、一つの自治体ではだめだから、これからのまちづくりは広域圏で考えていく。そうすると、関連する自治体はお金を出さなければいけない。JRも出さなければいけない。JRは自治体がお金を出さなければつくりません、これは。その前に、その150町部はどこ辺の開発を言っているのか。22年度中だから。団地や商業施設と合わせて専門学校等を誘致をしたいと言っていました。総合計画書には前に言ったところはなくて、また、新しいものが出てきている。その部分を確認したかったです。

《町長》_1:28:58

私も初めて聞きました。150町部の開発、専門学校等を誘致したいという思いがどうなっているのかというのは、現在の姿なのかなと思っていますけれども、議事録に関しても確認したいと思います。

《司会》_1:29:24

こちらの会場ですが、20時45分までしかお借りしておりませんので、これで意見交換は終了とさせていただきますので、よろしくお願いいたしますと思います。

今回の町民会議でございますけれども、2年ぶりの対面方式での開催ということでした。皆さん有意義な時間をお過ごしただけででしょうか。これからも町民会議は開催していく予定でございますので、どうぞ皆様にはまた、ご参加いただければと思っております。

最後に町長と皆様で記念撮影をさせていただきたいと思っておりますので、そのままお待ちください。

(記念撮影)

はい、ありがとうございました。(拍手)

《司会》_1:32:13

以上を持ちまして、第1回利府町民会議の一切を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。